

b) ねぐら周辺における生息環境の変化に伴う生息状況の変化

ねぐらとして利用できる洞窟は、A及びD洞窟である。周辺の土地利用及び植生の変化に伴う洞窟内の環境変化の一つとして、一般的に地下水量の減少に伴う洞内の乾燥化が懸念されるが、A及びD洞窟は事業実施区域外の上流側に位置していること、A及びD洞窟の洞口周辺の樹林は伐採しないことから、A及びD洞窟内の地下水は変化しないと考えられ、洞内の乾燥化は生じないものと予測される。

また、現在の樹林の状況及び事業による樹林の伐採範囲を、図-6.12.1.2(15)に示す。A及びD洞窟の洞口付近は改変されないことから、洞窟への小型コウモリ類の出入りについては支障は起きないものと予測される。

c) 樹林の消失による生息状況の変化

土地の改変により、事業実施区域の樹林が約30ha消失する。事業実施区域近くの小林地における活動個体数の調査結果から、ヤエヤマコキクガシラコウモリは3.9~6.8個体/ha、カグラコウモリは2.8~6.8個体/haが同時に採餌活動を行っていることが推定されたことから、これを消失する樹林の面積にあてはめれば、平均してヤエヤマコキクガシラコウモリは117~204個体が、カグラコウモリは84~204個体が採餌活動を行う場が消失することとなる。

また、樹林の消失によって、D洞窟から北東の餌場（海岸林）へ移動するルートである北東ルート及びA洞窟から南の餌場（海岸林）へ移動するルートである南ルートが分断される。さらに、その途中にある小型コウモリ類の採餌場所が減少し、小型コウモリ類のうち特に樹林環境を移動経路として利用するヤエヤマコキクガシラコウモリ及びカグラコウモリについて、A洞窟やD洞窟をねぐらとする個体の生息環境が変化すると予測される。

なお、小型コウモリ類にとっての主要な餌場であるカタフタ山方面の樹林や、その餌場へ移動するルートは改変されない。

表-6.12.1.2(20) 土地の改変により予測される環境の変化

影響	場所	利用の位置付け
生息地の縮小	工事に伴う土地の改変区域内の樹林	餌場 餌場への移動経路
移動阻害	洞窟周辺並びにそこから連続した樹林 改変区域内の樹林	洞窟間及び餌場への移動経路